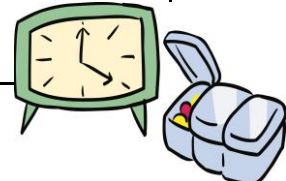


大腸の手術を受けられる方へ 患者氏名() 手術日 月 日 主治医() 担当看護師()

	準備	2日前	1日前	当日		1日後	2日～4日後	5日～退院まで
				術前	術後			
達成目標	<持ち物> 別紙「持ち物について」 をご参照下さい <禁煙について> 肺合併症を起こす原因 になるので手術前は禁 煙していただくようお願い致します。 <その他> ①手術時間は入院後 お伝えします。 ②入院後主治医からの 説明の際、ご家族の 同席をお願いする事が あります。 	手術の必要性を理解し、手術準備ができる		精神的、身体的に安定した状態で手術に望むことができる	①全身状態が安定している ②出血がない ③創痛のコントロールができる	①全身状態が安定している ②出血がない ③創痛のコントロールができる ④歩行ができる		退院後の注意点が理解でき不安なく退院を迎えることができる
薬剤						水分摂取可能なら内服薬(痛み止め)開始します。		
注射		脱水予防に点滴を行います。		→	手術後も点滴を継続します。		→	
処置			体の除毛・お臍の掃除をします。	術前の排便状況により浣腸をすることがあります。	手術後から酸素吸入を行います。	呼吸に問題がなければ酸素吸入は終了です。		
検査			適宜検査をおこないます。	→		→	検便があります。(3日目)	検便があります。(7日目)
安静度					手術後はベット上安静になります。	手術後の第一歩行は看護師と行います。	安静度の制限はなくなります。	
食事/水分		水分摂取は医師の指示に従って下さい。 食事は中止となります。	絶食中です。 水分摂取は医師の指示にしたがってください。	絶飲食 →	→	水分(水・お茶)500ml/日まで可能です。		問題がなければ流動食から開始し少しずつ普通食に近づけていきます。
留置物					尿管・お腹に管が入ります。	歩行ができれば尿の管は抜きます。		問題がなければお腹の管をぬきます。
看護			手術前日にシャワー浴をしましょう。			お腹の管が抜けるまで看護師により体拭きや洗髪を行います。		★食事開始後も排便や腹部の症状がないか確認をします。 ★お腹の管が抜ければシャワー浴は可能です。 ★手術後14、21日目に体重測定があります。
観察		腹部症状、腸閉塞の状況などを含め全身の状態を観察します。		手術に備え血圧など全身の状態を観察します。	麻酔の状態や手術後の全身状態の観察を行います。	傷の状態や、管からの排泄など観察を行います。	腸蠕動の回復、排便・排ガスの確認を行います。	
指導		★持参薬がある場合、看護師へ提出してください。 ★主治医からの手術に関する説明があります。時間調整を行いますので担当看護師に御確認下さい。	手術までに麻酔科医、手術室、ICUの看護師の訪問があります。(時間は決まっています。)	★排尿を済ませたあと、眼鏡・指輪・義歯・コンタクトなど全てはずして下さい。★手術室まではハジャマのまま歩いて向かいます。★ご家族は出棟までに来院下さい。	★手術後に痛みがある場合や眠れない時はいつでもお知らせ下さい。 ★術後は痰を飲み込まないように積極的に痰を出しましょう。	起立・歩行訓練を開始します。 ★平日9時、休日9:30～回診があります。病室で待機していただきます。		
教育・説明								退院後は規則的な排便習慣を心がけて下さい。腹痛・嘔吐・腹部膨満・排ガス停止などの症状があればすぐに受診しましょう。

※患者様の状態によって変更する場合がありますのでご了承ください。尚、ご不明な点がございましたら看護師までお尋ねください。
※入れ歯、ジェルネイル、カツラ、アクセサリ、コンタクトは手術当日、処置等で必要な際は取り外しをお願いします。また入院中のお化粧品もご遠慮下さい